

青森に生まれ育った 私がいま思う

「地方」と「政治の役割」

転換期にある地域と日本社会

岡田はなこ

(旧姓 三浦) 立憲民主党青森県第3区総支部長 / 弁護士

新たな始まり

RE:BORN あおもり
あなたとともに歩む

弘前市福村に生まれる

弘前市福村に生まれて、おじいちゃんおばあちゃんと同居する家で育った。父は田舎の長男。その長男の嫁として、北海道から津軽に嫁いだ母の生活を見てきた。

私が小さい頃、母は看護師をやっていて、共働きで家庭で育った。

共働きへの理解が少ない家だったと思う。幼心に「お母さん大変だなあ、あんなに頑張ってるのに、かわいそう。」と思っていた。両親含めまわりに大学行ってる人がいなかったが、母から強力に「青森県ではない世界見てくださいさい！」

と県外進学を薦められ、(東京怖いし)母方の親戚が多いという理由で北大に進学。



卒業式の日、同級生と

母に背中を押されて 北海道へ

札幌に住んでみて、人の多さにビックリした。大学には関東九州四国出身の人、海外に住んでいた人、大学教授と政治家を両親に持つ人、バイトでモデルやファッション人・・・青森で生まれ育った私。

良い悪いではなく、生まれた環境、育った環境の影響は大きいなと思った。

その経験からか、生まれた環境が人生に与える社会の仕組みのことはよく考えるようになった。

女性というだけで家事育児介護、総合職より一般職という社会。障がい者を同じ土俵に上げる努力をしない社会。親の財力で進学の選択肢が決まる社会。これまでもなんとも平等だと思っていた社会は、実は枠から抜け出そうとするととても難しいと思うようになった。それも有り、大学では体力差や能力差などがある人々が平等に扱われる社会制度はどう作られるべきか、ということを考える「フェミニズム法学」というマイナーなゼミが一番楽しかった。

プロフィール

- ・1980年弘前市福村に生まれる
- ・弘前高校卒、北海道大学法学部卒
- ・広島大学法科大学院法務研究科修了
- ・弁護士
- ・AGC株式会社法務部事業支援グループシニアマネージャー、同社経営企画本部戦略企画部事業グループシニアマネージャー
- ・NPO法人法人一新塾(大前研一創設)卒塾
- ・障がい者の自活できる社会創りチームメンバーとして最優秀理事賞
- ・主体的市民賞受賞
- ・一般社団法人Only One法務担当(日本の福祉作業所商品を海外へ)

絶賛動画配信中！
岡田はなこを知る



@Okada_Hanako
X (旧Twitter) アカウント



Facebook



留学を断念し、 広島のロースクールへ

就職活動の時期、ブラジル留学も考えていたがW祖父からの反対もあり断念。かといって中途半端なりにも挑戦してきた自負があり、当時設立が話題になっていたロースクールに行つて弁護士になつてみよう!と思うように。札幌となく似ていて、でも新しい場所、という意味で広島へ。

初期のロースクールには、経営者、敏腕サラリーマン、医者、学者、フリーランサー、アーティスト・・・語り合う中で企業や現場でお金を稼いできた人たちの話はとても面白く衝撃的だった。そこから民間企業で働いてみたいと思うようになった。

奨学金返済抱え東京へ ふるさとへの感謝 なぜ地方から若い人が出ていくのか

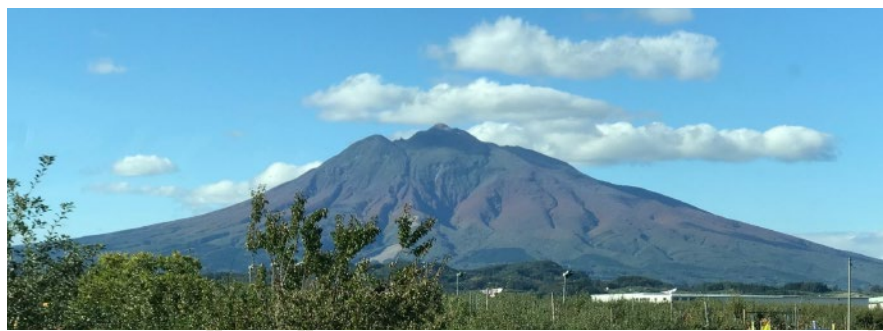
修習希望地はダメ元で(大人気なので)「東京」にした。東京修習に。初めての東京生活はあっさり始まった。

ちなみにその間の奨学金貸与額ほとんどないことになり、就職前に約800万円の借金が・・・常に生活が苦しく、バイト三昧。その後、モノづくりの会社に就職し、

技術者、研究者、営業マンと過ごす東京の日々はとても楽しかった。

でも満員電車、人気店入るための長時間の行列、ちょっと温泉行くのも電車乗って1時間、物価が高い(住居費等)。

青森の方がいい面もあると思う。



ちよくちよく青森に帰って充電するのが大事な時間になり、「ふるさと」への感謝が強くなった。同時に、なぜ地方から若い人が流出するのか、地方に戻る人は少ないのかを考えるようになった。

やりがいのある仕事、子どもの学習環境、習い事、病院、交通などのインフラ、少子高齢化・人口減少、地方の抱える悩みや課題。

青森がどういう状況なら青森に帰る決断ができるのか。青森が好きで、青森に住みたいのに、なぜ今の青森には帰ろうという決断ができないのか。

出産、子育ての現実

そうこうしているうちに、子どもができて全然ゆとりがなくなった。コロナの時、派遣をやりながら子育てしているシングル友達が泣きながら「助けて」と言ってきた。保育園が休みになり、仕事に行けない、生活できない・・・

気がつけば、周りにはギリギリのところでは生活している人が増えていた。

いつの間にか、日本は格差のある、脆弱な社会になっていると感じた。派遣だって好きでやってるわけじゃない。抜け出したくても抜け出せないのだ。

地方での豊かな生活と生き方

地方での豊かな生活の実現と、個人の豊かな生き方の実現。少子高齢の日本は今、転換点にいる。現状維持ができない。社会が変わらないといけない。



先端技術は地方と都会の距離の格差を縮め、人口減少の人手不足感や女性と高齢者の社会進出と地位向上の大きなチャンスでもある。人口が少なくても、青森にやりがいのある仕事、子どもの学習環境、文化のある生活を実現したい。そう思うようになった。

社会を変える力が政治には あるはず、やってみよう

これを実現することができるとは、政治。でも、今の政治は目先のことで、既得権益を守ることしか考えていない。このまま任せていても、働く環境は変わらないし、青森から人口流出するものも変えられない。誰かがこの流れを変えないといけない。自分でもできるのかもしれないのだとすれば、やってみようと思った。

未知の世界に飛び込むのは怖いけれど、意外とやってみればなんとかなるもの。

できることをやって、子どもたちに「ママがんばったよ」と言つて、良い社会をバトンタッチしたい。

